

議会だより

しらたか

2015年10月22日発行
(平成27年)

Vol.128

山形県白鷹町議会
9月定例会

「おっ！力あるな～」

東根小学校、宝山整備作業 17頁に関連記事

- ・ どうだった？ 26年度決算状況 2p
- ・ 未来へ生かす ―決算審査― 4p
- ・ ここが聞きたい（4議員が熱弁） 10p
- シリーズ企画 議会の疑問に答える
- ・ 「議会なになぜ？」 17p

のため基金積み増し

3億5427万円積み立てた



歳入・歳出共に前年度を上回る結果

災害関連経費や除雪経費、学校再編整備などへの予算執行と災害や除雪にかかる特別交付税の増額が要因となっている。

平成26年度 各会計決算額表

会 計 項 目		歳入（収入）	歳出（支出）
一 般 会 計		94億5515万円	86億7114万円
特別会計	十 王 財 産 区	139万円	33万円
	下 水 道	7億3368万円	7億1838万円
	国民健康保険	16億8678万円	16億 519万円
	農業集落排水	1億4079万円	1億3646万円
	介 護 保 険	15億6240万円	15億3220万円
	後期高齢者医療	1億3600万円	1億3491万円
企業会計	水 道	収益的	3億1296万円
		資本的	1349万円
	病 院	収益的	11億2139万円
		資本的	270万円
	訪問看護 ステーション	収益的	3686万円
		資本的	0
合 計		152億 359万円	145億 408万円

※万円未満は端数を調整しています。

9月 定例会

定例会は9月8日から17日までの10日間で開催され、26年度各会計決算、27年度補正予算、条例の改正、人事などについて審議し、すべて原案のとおり可決しました。

討 論

町民の安心・安全のための 予算執行を求める

賛成討論

田中 孝議員

本町の財政状況においては、行財政改革の推進により人件費や公債費が減少傾向にあることは一定の評価をします。しかしながら、税をはじめとする自主財源の比率は依然低い状況であり、脆弱な財政であることを示しています。地方交付税等の依存財源は不安定な財政構造であることを認識し、適切な財政執行を求め、町民の負担をより少なくする努力をするべきです。

歳出については、第5次総合計画に基づき積極的に施策を展開し、財政指数改善の財政運営努力を評価し賛成討論とします。

また、各推進計画やサービスの実施、各種支援などを望みます。2年続けたの災害を検証し、速やかな未復旧箇所の対応を願います。

※一般会計に対する反対討論はありませんでした。

平成26年度決算

苦勞の黒字決算 将来

2年連続の豪雨災害・豪雪にもめげず貯金

26年度に行った主な事業

障害福祉サービス費	2億3594万円
延長保育促進事業	1780 万円
中山間地直接支払事業	8888 万円
畜産生産拡大支援事業	4426 万円
パークゴルフ場改修工事	5756 万円
除雪委託料	2億4398 万円
道路改修工事(浅立沼田線)	3447 万円
スクールバス運行委託料	1800 万円
統合中学校整備工事	3億6376 万円
災害復旧工事	4億4758 万円
急斜面砂防自然災害防止事業	3006 万円

※万円未満は端数を整理しています。

《わがまちの財政力》

区分・年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	説	明
財政力指数	0.261%	0.251%	0.244%	高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い。	
経常収支比率	89.0%	88.8%	92.5%	低いほど独自の政策のために使えるお金が多い。	
実質公債費比率	10.3%	12.0%	13.5%	収入に対する負債返済の割合。	



外は雨でも互いに負けない
熱血応援合戦

監査意見書

依然厳しい財政 適正な予算計上 に努める

平成26年度の財政状況においては、経常収支比率は昨年度から0・2ポイント上昇の89・0%と依然厳しく硬直した財政状況といえる。実質収支額はここ数年増加傾向にあり、今年度は6億円を超えている。限られた財源を有効に活用できるよう、より適正な予算計上と計画的・効率的な事務事業の執行管理に努められたい。

昨年、一昨年と2度にわたり町内各地に甚大な被害をもたらした豪雨災害を検証し、町民の安心・安全の確保に資するよう総合的な計画的な防災行政の推進をはかられたい。まちづくり複合施設

整備事業においては、町民への説明をきめ細やかに理解を得たうえで、町民が利用しやすい親しまれる施設になるよう意見を反映し、省エネや環境に配慮しつつ町産材をフル活用できる整備に期待したい。

コミュニケーションは地域の活性化や地域づくり、産業の発展といった地域経済の循環に大いに期待が膨らむ事業である。町民が主体となって地域を盛り立てていくことがまちづくりの根幹と思われる。町民が主体的に行う事業への支援と更なる連携強化をお願いしたい。

代表監査委員

小形 安弘

監査委員

山田 仁

決算特別委員会

PDCAサイクルで未来へ生かす

予算（Plan）・執行（Do）・検証（Check）・編成（Action）

委員長 小形 輝雄

副委員長 樋口与一郎

決算特別委員会とは

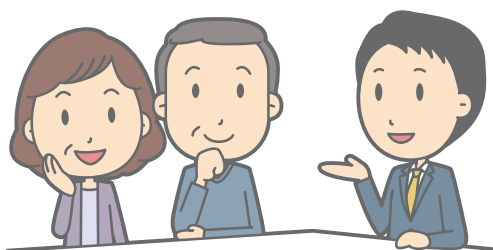
議会が決定した予算が適正に執行されたかを審査するとともに、その行政効果や経済効果を精査し、住民に代わって評価します。審査の結果は後年度の予算編成や行政執行に生かされます。

構成委員は遠藤議長と山田監査委員を除く全議員です。

質疑

歳入

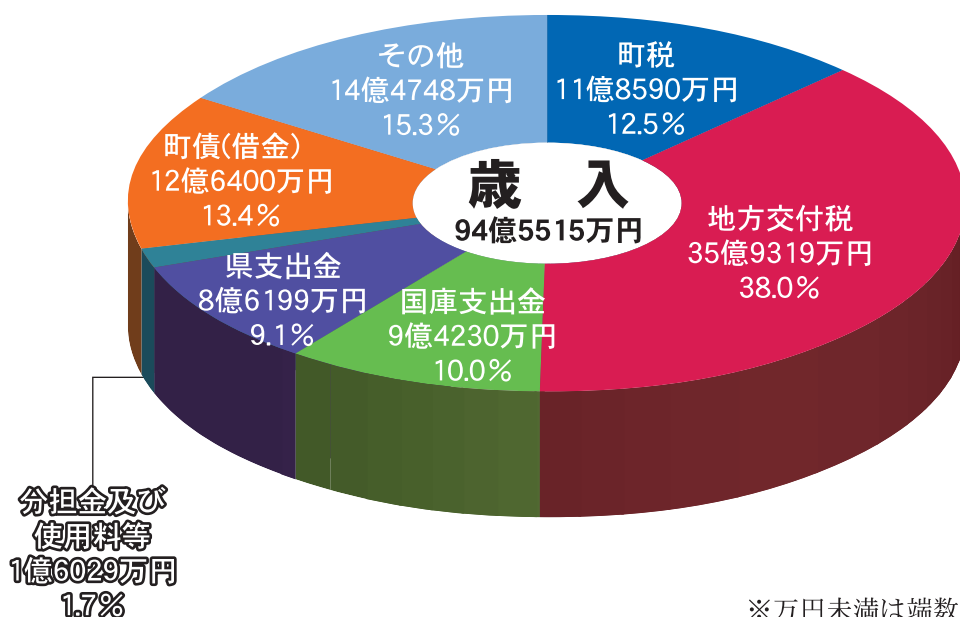
（町の収入）



税務出納課長 全国
地方税徴収実務機構からアドバイザーを招き、基本的な考え方や個別事案に対する具体的なケースの指導をいただ

収納率向上への取り組みと成果は
菅原委員 収納率向上について、徴収アドバイザー派遣事業はどのような取り組みか。また、どのような成果があったか。

いた。まずは現年分の徴収を強化するという考え方で、収納率は前年比較で全ての税目でアップすることができた。



※万円未満は端数を調整しています。



自慢の一品

歳入

（町の収入）

都市計画税の見直し

関委員

都市計画税

は、特に公共下水道事業の税として創設されたものと認識している。税徴収の公平性から見直しをしようか。

副町長

課題ではあるが判断には至っていない。税のあり様は、創設当初とは大きく変化しているという認識を持っている。

白鷹に思いを寄せる方々に、心が通う施策を望む

今野委員

ふるさと

応援寄付金は厳しい財政状況の中でありがたい。

寄付者には、単に物を返礼品として送るだけでなく、白鷹を訪ねてもらう工夫（例えば宿泊券等）や、これまでに以上に交流や絆が深まるような企画も必要ではないか。

企画政策課長

白鷹

の魅力発信と同時に、交流拡大や心のつながりに向けた方向性も探っていきたい。



歳出

（町の支出）

質疑

総務費

電算化の効果は

佐々木委員

コンピ

ュター処理による事務の電算化の経済的效果は。

企画政策課長

事務

の効率化、迅速化、正確性を確保するために取り組んできた。



昔の机に最新パソコン

たとえば税務関係の事務処理も、置賜全域で統一した様式により、効率性をはかる目的で同じシステムを使用し、スケールメリットを活かし経費削減を行っている。

選挙に関わる環境の見直しは

小口委員

人口減少

にともなう選挙時のポスター掲示箇所や、投票所の見直しと、期日前投票の浸透による投票時間の繰り上げの検討は。

総務課長

公職選挙

法施行令に基づいた基準により設置している有権者の方々の立場になり、候補者の周知や投票環境等を考慮し、今後、効率的な投票所設営という視点も含め、検討を進めて行きたい。

歳 出

（町の支出）

質 疑

総 務 費

小額発注の公正・公平性は

樋口委員

看板作成

委託の内容を問う。さらに、随意契約と競争入札の整合性がとれていない場合がみられるのは公正、公平性に欠けるのではないか、考えを問う。

企画政策課長

看板

作成委託事業は各地区コミュニティセンター看板作成で、1社見積もりによる随意契約の発注であった。



そーっと、やさしくな

副町長

小額な部分

等について、地域経済においての町内業者の皆さまに対する意を踏まえながら、法令を遵守しながら対応したい。

民 生 費

老人クラブの活動への助成状況は

笹原委員

元気なお

年寄りの活動は医療費削減にもつながる。還元して助成金の拡大を望む。

健康福祉課長

老人

クラブのみならず、元気な高齢者団体には増額を検討する。

民生児童委員活動委託料への対応を問う

奥山委員

民生児童

委員活動委託料は各地区の状況により経費も変わるが、予算設定や対応をこれからどうするのか。

健康福祉課長

活動

費ということで、県からひとり5万8200円の補助に、町単独で2万6700円を上乗せしている。

補助は今後も継続していきたいと考えているが、地域による世帯数の区割りによって町単独で補助を上乗せするかなど、今後検討していきたい。

人工透析通院交通費助成の支援拡充を

樋口委員

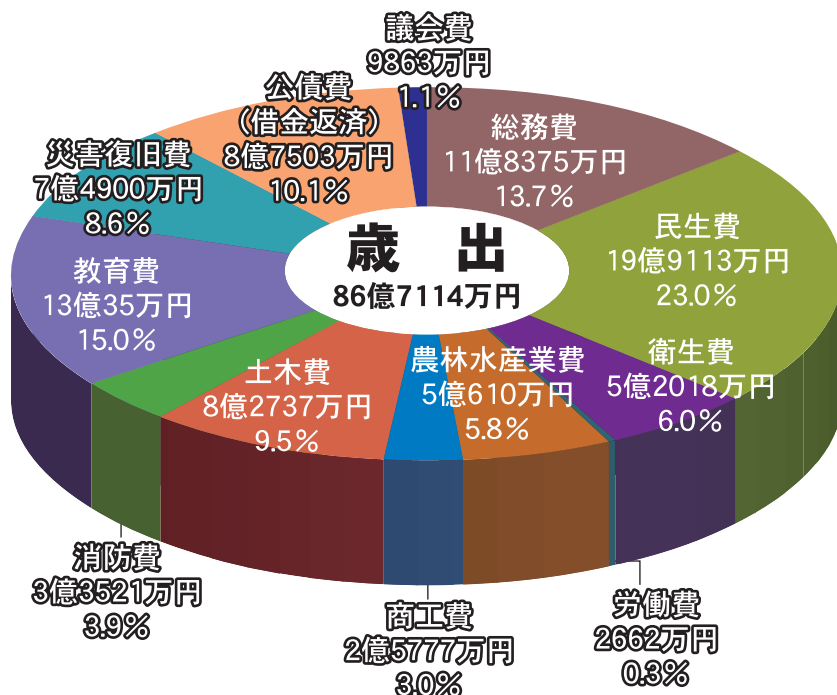
人工透析

通院交通費助成事業の対象者数は。また、今後の対応は。

健康福祉課長

26年

度は25人であり、週2回自家用車を利用した場合のガソリン代相当分で、月3000円と設定している。現状を調査し支援拡充を検討していきたい。



※万円未満は端数を調整しています。

農林水産業費

不用額の内容は

田中委員

農業振興

費と農業再生協議会費での不用額の内容を問う。

農林主幹

国・県の

補助事業への要望に対して、採択数が少なかったことや、事業の見直しにより、事業そのものが縮小したことなどが要因である。



家族総出で自然乾燥

地産地消促進事業の成果は

小口委員

学校給食

での町内産農産物の使用割合と民間委託後の対応は。

教育次長

食育推進

計画の重量ベース目標30%に対し37%の実績。民間委託業者には食育推進計画の目標数値のクリアを仕様書で規定している。

6次産業化事業の実績は

小口委員

期待度が

高い6次産業化事業の実績と課題は。

産業振興課長

26年

度はトマトの加工販売などの3件の事業に対し助成を行った。零細な家族経営の中での6次化は数量面・販売面

で限界があり、産業として成り立つ仕組みも事業と合わせて検討していく。

商工費

真夏開催の産業フェアの成果は

笹原委員

前年とは

違い、産業フェアの開催時期を8月にしたこと、場所をあゆーむに移したことの成果を問う。

産業振興課長

子供

の集客を考え夏休み時期にしたことや、あゆーむの機能を十分に生かして、新たに「我が家のお宝展」などを開催し、一か所でできたことは有意義であった。26年度の反省を踏まえ、27年度は開催時間の工夫をしている。

観光協会の事業内容は

石川委員

観光協会

に対する委託金、交付金により実施された事業の内容を問う。

産業振興課長

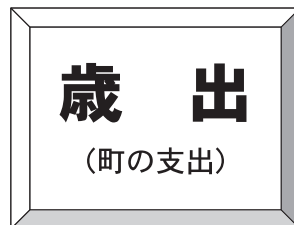
観光

4シーズン化事業として、「春はサクラ、夏はベニバナ、秋はアユ、



子供達も興味津々

冬は隠れ蕎麦屋のしらかへ」をキャッチフレーズにした取り組みをしている。それぞれのイベントでは多くの集客があった。また、観光協会振興交付金は、協会職員の人件費等である。



質疑

土木費

維持工事費の確保は

佐々木委員

実質収

支で約6億円の残額があるが、きめ細やかな予算編成で維持工事費をもっと多く確保できないか。

総務課長

歳入の厳

しい状況等を踏まえ、当初予算段階における歳入をベースとした予算編成に当たっている状況である。



早く直してよ。

消防費

防火水槽の整備の方針は

佐々木委員

26年度

の防火水槽の整備の方針は。また、無蓋の防火水槽の泥上げ等の管理が地域の大きな負担となっているが、今後、防火水槽の整備はどのくらいのペースで進めていくのか。

総務課長

新設整備

は2基であった。

防火水槽の管理は高齢化、あるいは世帯数の減少等により負担になっている現況がある。全てを有蓋化とは考えていないが、取水の状況などの現場を踏まえつつ、整備に当たっていききたい。

教育費

教職員の多忙化解消は

笹原委員

本町のい

じめの実態と、多忙な教職員へのサポートは。

教育長

いじめに関

して26年度は数件の報告があったが、早期に対応した結果、全て解決している。

事務補助員や支援員を配置するなど教職員の多忙化解消に努めている。



病院事業会計

収支損失の原因は

奥山委員

収支損失

が5100万円になった原因は何か。

病院事務局長

収益

は入院、外来患者数が計画よりも伸び悩んだことと、実質マイナスの診療報酬改定となったことから減収したと



誠意をもって対応

考えている。

費用は会計基準の見直しや消費税の増額により雑損失が増加、施設の老朽化にともなう修繕費、医療機器等の更新により、純損失が発生したと分析している。

補正
予算

このように決めました

質 疑

基金積立や町道・河川維持、災害復旧などに

一般会計補正の主なもの

公共施設整備基金積立 1億5500万円

財政調整基金積立 1億0010万円

両基金共に今後見込まれる財政需要等に備えるもの

「日本の紅（あか）をつくる町」紅花生産

日本一連携推進事業委託 1010万円

紅花の生産体制強化と高付加価値化を進め、
交流人口増大をはかるためのもの

町道維持補修費 3037万円

路面補修等の維持補修工事を行うもの

河川水路維持事業費 1570万円

河川や水路の維持補修工事を行うもの

地区コミュニティセンター費 271万円

個人番号カード関連事業費 537万円

放課後児童健全育成事業 1307万円

園芸産地雪害対策事業 214万円

企業立地促進事業 500万円

すまいる住まい！若者定住サポート事業 540万円

消防団活性化事業 200万円

農地豪雨災害復旧事業費 1885万円

など

◎ 財源は国、県支出金、地方交付税、繰越金などで
対応します。

※万円未満は端数を調整しています。

【当局】 寄付金は図書の購入を目的としたもので、現在計画中のまちづくり複合施設に整備予定の新しい図書館で活用する方向。寄付者の意向を考慮して対応した。

【委員】 社会教育寄付金が公共施設整備基金に充当された理由は、
図書購入費を含めた基金積立へ



静かに勉強中

【当局】 協議会など組織への委託事業となるが、紅花生産者の方々の生産意識を高める事業やイメージ戦略としてプ

【委員】 紅花の時期が終了した中で「日本の紅（あか）をつくる町」紅花生産日本一連携推進事業の具体的な内容は、

ロモーションビデオの作成、展示用紅花染めの着物の製作、ボランティアガイドの研修会、体験プログラムの開発等々を行い来年、再来年と続けられるような土台をつくっていき



おいしいものがいっぱい

平成27年度補正予算総括表

会 計 名	補正額	補正後の額
一 般 会 計	4億62万円	84億663万円
特別会計	下 水 道	△2053万円
	国民健康保険	1464万円
	農業集落排水	10万円
	介 護 保 険	3714万円
		16億1500万円

※万円未満は端数を調整しています。

町の農業振興を問う

町長 新規就農者支援に力を入れる



田中 孝 議員

米政策見直しへの対応は

問

生産者のみならず地域の方々も不安を募らせている。今後の取り組みについて問う。

町長

今後の稲作のあり方を見据え、関係機関、地域とも連携をはかりながら取り組んでいく。

稲作農家の経営は厳しい状況にあるが

問

米価下落による収入減を補う政策を考えているか。

農林主幹

26年度において「ナラシ移行のための円滑化対策交付金」及び、緊急の利子補給、生産支援緊急対策事業等で補てんした。今後、再生協議会で飼料用米、ホールクroppサイレージ稲、つや姫の作付等を検討していく。

農地中間管理事業は

問

担い手支援のため、農用地の集約を進めている現状を問う。

町長

26年度実績は539筆、約117haである。今後も国からの交付金として様々なメリット措置もある中で、積極的に活用を進めていく。

生産基盤の確立を

問

水田の基盤整備が行われているが、未整備地域もある中で今後の取り組みを問う。

町長

地域での「人・農地プラン」の話し合いの中で、農地を守っていく場合に必要となれば、町として支援するよう考えている。

新規就農者の支援は

問

就農者、または新たに農業を行い定住される担い手の方々に対する支援、育成の取り組みを問う。

農林主幹

国の地方創生事業を活用し、近く新規就農者受入協議会を発足させ先進地視察や農家の育成等を行い、体制を整備していきたい。

農協改革への所見を

問

国は農協改革を行い、農家所得を増すとしているが、農家は不安を持っている。町長の所見を問う。

町長

JAの果たされた役割は高く評価する。8月29日に参議院で決定されており、情報を早く集め本町の農業政策に、役立てたい。



若者にはかなわない

庁舎等新築の町民サービスへの影響は

町長 コストを抑えて整備をしていく



奥山勝吉 議員

町民サービスの確保に対する影響は

問

施設整備の財源と地区からの要望に対する影響についての考え方は。

町長

有利な財源確保を行いたい。

基金は今回の補正を認めていただければ約6億5000万円となる。起債（借金）で補う場合はいかにコストを抑えていくかの視点で取り組みたい。各施設を順次、整備と廃止を行い、町民サービスの確保を優先する。

公共施設整備基金をどのように使うのか

問

もともと維持補修費を想定していた基金のうち、どのくらいこの事業に使うのか。

副町長

補助金や、有利な財源で足りない部分に基金を充てる。具体的な数値は基本設計をつくる中で検討していく。

疑問に思う町民が多いようだが考えは

問

新築の概算事業費は31億円で、なぜ今庁舎は、新築にこだわるのか、疑問に思う町民が多いようだが考えは。

企画政策課長

新築せず耐震工事では事務スペース確保等がなくなる問題がある。新築すれば費用は高くなるが、町民にとっても、利用しやすい施設になると考えている。

借金の返済の計画は

問

人口減少化の中で、何年間で借金を返済するのか計画を問う。

総務課長

過疎対策事業債は12年、一般事業債は20年間で返済期限であり、これらをベースに予定している。

木材産業の創造に対する考えは

問

作業道整備や木材産業の推進と並行して、複合施設整備を行うべきでは。

農林主幹

森林境界明確化をモデル的に行い、この中で森林経営計画をつくり、路網を整備し木を切り出すという方向で進めている。



山崩れで登れません（からまつ林道）

アンケートを取り、町民の理解を得られた形での整備を

問

町民の理解を得るには。

町長

改めていろいろな機会をいただきながら、町民の皆様にご理解を賜りたい。

スポーツ公園の中丸池の保全を

町長 県と協議を進めながら検討していく

豪雨災害で満砂になった中丸池は

問

2年続きの豪雨により、土砂が鮎貝の中丸池を埋め尽くすまでになっている。ただ、中丸池があったことにより八幡、大町方面の住宅地への災害が未然に防がれたと認識している。

災害防止とスポーツ公園の中でもシンボリックな中丸池の保全について町長の所見を問う。



石川重二議員

町長

中丸公園は、スポーツ施設を含め町の最大で重要な都市公園と認識しており、町民のスポーツ振興、健康増進、子育て、憩いの場の拠点として、今後、施設整備並びに維持管理を行うことが必要と考えている。

問

合わせて常海沢川の整備を

一方で、中丸池への土砂の流入を防ぐには、上流部の常海沢川の整備と陽

光学園南側の崖地崩壊防止工事を併せて行うことが重要と思うが。

町長

常海沢川は、上流域にある山腹が荒廃しており、砂が押してくる河川であることから、砂止めの施設は管理上必要なものと認識している。

常海沢川は町で管理する準用河川であり、県の砂防指定地にもなっている。

ため池の浚渫は、防災上必要であることから、上流部の対応と併せて早い時期に工事着工できるよう、さらに県と協議を進めながら検討していく。

西口堰の土砂流入対策は

問

常海沢川から西口堰への分水口があり、大量の砂が西口桜館方面に流れてきて、頻繁に砂上げしなければならぬときがある。上流に大きな砂だまりをつくり、大型機械で処理できるよう対応できないか。

町長

西口堰については、鮎貝4町内西口地区の農業用水路であると認識をしている。流入する土砂対策として、鮎貝西口交差点付近に砂止めの柵が設置されていたが、地元での維持管理が困難であることから撤去されている。

鮎貝区と水利関係者が検討したうえで町としての対応を検討していく。



3年過ってもこのまま

老朽化した空き家対策を急げ

町長 協議会を設置し、対策計画を策定する



菅原俊一議員

危険な空き家対策

問

前回調査から2年が経過し老朽化が進んでいる。早急な対策が必要ではないか

町長

25年度調査では、空き家が372件、危険と思われるものが53件、特に危険が切迫しているものが9件あった。今後、追加調査を行うと共に、専門家や学識経験者、自主防災組織の方々と協議会の設置と「空き家等対策計画」を策定する。

問

空き家放置によるデメリット

町長

納税通知書にチラシを同封するなど、様々な機会に周知する。

解体助成金を望む

問

費用問題で解体が進まないのでは。

町として助成金を。

町長

防犯・環境上の観点から、地域の合意形成、所有者の確定などの課題を解決後、自主防災組織や地域で対応を行う場合、支援を検討する。

地域ブランド「SHIRATAKA RED」の立ち上げを

しらたか

レッド

町長 商標登録も視野に、ブランド力の向上に努める



やわらかいうちに摘むぞ

SHIRATAKA REDのブランド化を

問

ブランド化は頑張る生産者の励みになる。大きな展開を望む。

町長

ブランド化は27年3月に策定した「白鷹町観光交流推進計画」の中に盛り込まれている。食品に限らず紅（あか）にこだわったものをPRしていく。商標登録も検討しながら複数のメディアを活用し、情報発信していく。

情報発信にドローンの活用を

問

ドローン（無人航空機）は、

町の美しい風景や季節ごとのイベント、災害現場の現状の撮影等、多方面で活用が見込める。是非、積極的な活用を。

産業振興課長

様々な分野での利活用が期待される。町としては業者委託の方向で活用を前向きに検討したい。

総務厚生常任委員会

「地方創生」総合戦略の策定
が大詰め

9月14日、委員会が開催され、総合戦略の策定状況について説明を受けた。

総合戦略 4つの基本目標（案）

1. **し**：自然・人材・資源を活かし、企業活動の振興や就農支援を強化し、産業の活性化により雇用を創出します
2. **ら**：ライフスタイルに合わせた多様な交流、移住を推進し新しいひとの流れをつくります
3. **た**：たくさん子どもたちが元気に生まれ、安心して育てられる子育て教育環境の充実を進めます
4. **か**：活力ある地域をコミュニティセンター（小さな拠点）を核に共創し、安全で快適な暮らしやすいまちをつくり、定住促進を図ります



未来へ向かって「それいけ！」

質疑

人口減少対策は

委員 都会から人を呼び込むための方策は。

今年の5月から始まった総合戦略の策定も完了目標の10月末が目前に迫り、策定委員会での検討はもとより、議会や各種団体の意見聴取、まちづくり座談会での意見も参考に「まち・ひと・しごと創生」に結びつく具体的な内容を反映させるとの説明があった。

今年の5月から始まった総合戦略の策定も完了目標の10月末が目前に迫り、策定委員会での検討はもとより、議会や各種団体の意見聴取、まちづくり座談会での意見も参考に「まち・ひと・しごと創生」に結びつく具体的な内容を反映させるとの説明があった。

当局 先輩移住者の方に相談に乗っていたいただくことを考えている。

委員 婚活や出会いの場の創出にどのように取り組むか。また仲人的な取り組みへの支援は。

当局 常勤の婚活専門員を置き、独身者の意識調査などを行っている。同様の活動をしている団体とも連携して取り組む。

まちづくり座談会に322名の町民が参加

7月2日から8月25日まで全地区で開催した座談会実施状況について説明を受けた。

質疑

若者の意見をまちづくりへ

委員 若者限定の座談会ができないか。

当局 若い人の意見は身につまされるものがある。ご意見を伺いながら今後検討していきたい。

成人式で初のアンケート実施

8月15日の成人式で初の試みとなるアンケートを実施したことが報告された。残念ながら回収率が四割に届かず、今後課題を残した。

新成人の結婚観や郷土愛を知るための大事な取り組みなので回収率向上に努めていただきたい。

その他

○Jアラートシステム整備事業
○地域おこし協力隊の取り組み状況
について説明があった。



新成人に期待

産建文教常任委員会

地域に根ざした心かよう学校づくり

9月15日に委員会が開催され「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」策定について説明を受けた。

趣旨と内容

法律改正の趣旨を受け、本町の実情に応じた施策の基本的な方針を定め、推進する展開方向を示すもの。その後の社会情勢の変化に対応する新たな視点（いのちの継承等）を盛り込んで策定している。

質疑

**コミュニティ
スクールの導入は**

委員 全国でコミュニティスクールの動きもあるが本町の考えは。
当局 当町では評議員会制度が成果に結びついていいると思う。どのような方法が望ましいか検討していきたい。



手、切んなよ

学校間の連携を

委員 保育園と小学校など縦の連携と合わせて、小学校間の授業や行事の交流で連携し、統合せず白鷹独自の教育の検討ができないか。
当局 急ぎ過ぎず地域や保護者と話し合いをして進めていきたい。複式学級になった際に統合の検討を進めるということ、即統合ということではない。首長と教育委員会が十分に話し合い取り組んでいく。

実績報告

一般財団法人白鷹町アルカディア財団の、平成24年から26年までの、経営改善計画の実績について説明を受けた。

パレス松風の経営状況は



積極営業で盛り上げ

質疑

改善に向け自助努力は

委員 一般企業と同じ感覚で自助努力する必要があると思うが。

理事長 一般法人とないが、移行前の赤字を引き継いでいることをご理解いただきたい。今後、株式会社化の検討をしているところでもある。

その他

○西置賜地区視聴覚教育協会の廃止

○白鷹町スポーツセンター構想の推進

○ヤナ場の状況について説明があった。

今後に向けて

財団としては、能力を超えた課題も多く、今後も町の支援が必要と考えている。より一層各団体と連携を強化し、経営を継続して行く。

まちづくり複合施設等整備特別委員会

基本設計に町民の意見反映

公開プレゼンテーションの結果、基本設計業者決定

9月9日の特別委員会で「まちづくり複合施設整備事業」の取り組み状況についての説明を受けた。

まちづくり複合施設等整備に向けて、選定委員会を設け、プロポーザル方式による基本設計業務設計者の選定を実施した。

最優秀

(株)環境デザイン研究所 (東京都)

次点

(株)羽田設計事務所 (山形市)

質疑

町民の理解は

委員 事業そのものに対して、町民の方々の理解を得る努力が必要と思うが。

当局 まちづくり座談会でも説明してきた。

今後、パブリックコメントも実施するが、地域の集まりなどで要望があれば出向いて説明させていただく。

- ③ 公開プレゼンテーションにより基本設計業者選定
- ② 第1次審査会で4事業体を選出
- ① プロポーザル説明会18社参加うち6事業体参加表明
同事業体より提案書提出

●これまでの経過



公開プレゼンテーション



※その後、9月30日と10月5日にそれぞれ委員会が開催され、消防分署用地の説明と、基本設計業者に選定された(株)環境デザイン研究所による「基本設計の考え方の説明」を受けた。

置賜地方議会議員の

交流を深める



平成27年10月1日、改選後はじめて、置賜5町（高畠・川西・飯豊・小国・白鷹）の議員交流会が小国町を会場に行われた。

林野庁東北森林整備局・置賜森林管理署長の小川靖志氏より「国有林野行政と地方創生」の演題で森林・林業を取り巻く状況や、これからの森林のあり方等の講演があった。

本町においても、森林・林業再生協議会を組織し、モデル事業を活用しての境界明確化事業への取り組みを行っている。今後は、まちづくり複合施設等への活用が林業再生への足掛かりとなるよう注目していく。



5町の課題はほぼ同じ

議会になになぜ?



議会に対する素朴な疑問をQ & A方式で
分かりやすく解説します。

なぜ議会活性化?

Q なぜ今、議会活性化なの

A 近年、全国的に選挙の投票率が下がっている傾向にあり、特に地方自治体の議会議員選挙では著しい現状です。

また、町村議会の選挙では議員に立候補する人が少なく無投票になっているところも増えてきています。

このことを大きな問題ととらえ、議会の活性化や改革が必要と考え、取り組みが始まりました。

Q 具体的に何をするの

A 白鷹町議会では「議会活性化特別委員会」を設置して、二つの分科会に分けて検討することになっています。

第一分科会では、主に議員定数と議員報酬について。

第二分科会では、主に※1議会基本条例の制定についてです。

Q それじゃ今まで何もしてこなかったの

A 今までも委員会を設置して活性化に向けた改革を進めてきました。

たとえば、情報公開として議員の自主編集による「議会だより」の発行や議会のインターネット放映。

議会審議のあり方として一般質問での※2一問一答方式の導入や、補正予算も予算特別委員会での審査。

また、議員自らが選挙によって選ばれる特別職であるとの自覚の

もとに「政治倫理条例」の制定。など他の自治体に先駆けて取り組んできました。

Q 結局、何が目的なの

A まちづくりには議会も欠かせない存在になつていくことが重要です。

活性化の成果を町民の方々に実感してもらうために、今まで以上に町民の視点を意識して改革していくことを目的としています。



※1開かれた議会を目的に議会運営の基本原則を定めるもの。

※2議論を深め、聞いている人にもわかるようにするための質疑方式。

表紙

― 森林保全の大切さと苦勞を学ぶ ―

東根小学校宝山整備

東根小は、昭和53年から「緑の少年団」の活動に力を入れてきました。9月12日は、朝から6年生が親子で、学校林でもある近くの「宝山」の整備作業を行いました。地域の方々が整備したものを、学校とPTAが管理しているものです。秋晴れの中、作業を通じて森林保全の大切さを学び、その苦勞を体験しました。



契 約

●平成27～28年度 白鷹町浄化管理センター 改築更新(機械・電気)工事請負契約の締結

契約の方法 指名競争入札
契約金額 2億2788万円
契約の相手方 仙台市青葉区
株式会社フソウ 東北支店



施設更新の浄化管理センター

条 例

- 白鷹町個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定
- 白鷹町手数料徴収条例の一部を改正する条例の設定
- 白鷹町農業集落排水施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定

すべて全会一致で承認されました。

人 事



船山 嘉実氏

- ・9月30日に任期満了にともなう教育委員会委員に船山嘉実氏（鮎貝）が選任され全会一致で同意されました。
- ・任期満了にともなう白鷹町固定資産評価委員会委員に船山義彦氏（畔藤）が引き続き選任され全会一致で同意されました。
- ・任期満了にともなう人権擁護委員候補者に嶋林淳子氏（荒砥）が推薦され全会一致で同意されました。
- ・任期満了にともなう選挙管理委員会委員の選挙により影山長助氏（高玉）、小川浩美氏（荒砥）、竹田敏恵氏（滝野）、鈴木みち氏（浅立）が当選されました。

指定管理

施設の名称 白鷹町文化交流センター
所在地 白鷹町大字鮎貝7331番地
管理者の名称 あゆむ運営管理共同企業体
期間 平成28年4月1日から
平成33年3月31日まで

請願・意見書

請願はすべて採択

●TPP交渉にかかる国会決議の実現に関する意見書提出方請願

請願者 山形おきたま農業協同組合
代表理事組合長 木村 敏和 ほかに1名
全員賛成

●TPP交渉に関する請願

請願者 白鷹町農民連 会長 川部 忠弥
全員賛成

意見書(要旨)

政府は、日米二国間協議を含めた交渉に関する情報開示の徹底と、かかる国会決議（衆参農林水産委員会）を遵守し交渉に臨む極めて重い責任がある。TPP交渉が重大な局面を迎えているなか、これら国会決議を必ず実現するよう強く要望する。

(提出先)

内閣総理大臣 財務大臣 外務大臣 農林水産大臣 経済産業大臣 経済再生担当大臣

●「平和安全法制」法案の廃案を求める意見書提出についての請願

請願者 西置賜革新懇話会
代表世話人 今泉 義憲
賛成6人反対6人欠席1人のため議長裁決により採択

意見書(要旨)

戦後70年間維持してきた平和国家としての日本のあり方を根本から変えてしまう内容であり、国民の命と暮らし、平和を守るため、安全保障関連法案を撤回・廃案とされるよう強く要望する。

(提出先)

内閣総理大臣 衆議院議長 参議院議長



— あの質問のゆくえ —

山林所有者の意識調査が必要

山林所有者の情報把握、意識調査についての考え方を問う。

平成25年 3月

課長
答弁

詳細の把握と手立てを検討する

詳細は把握していない。どのような手立てが必要なのかも含めて検討する。

どうなった



所有者立会いのもと、境界杭を設置

「白鷹町森林・林業再生協議会」を設置し、森林・林業の再生に向けて動き出す！

豪雨災害をきっかけに町・森林組合・商工会・NPO等をメンバーに白鷹町森林・林業再生協議会を立ち上げ、町内の森林整備の推進と森林資源の利活用に向けて取組みを行っております。

森林整備が進まない原因としては、木材価格の低迷や世代交代等で山への関心の希薄化、森林の境界が不明瞭なことがあげられます。川東、川西地区のそれぞれに、モデル地区を選定し、境界明確化事業を実施しています。

境界明確化を実施した地区におきましては、今後、西置賜ふるさと森林組合が森林経営計画を策定し、国の補助事業を活用しながら利用間伐等の森林整備や路網の整備を進めていく予定です。

この取組みを広めていくことによって、所有者の方に山に対する関心を高めていただき、森林の整備と林業の再生になるよう、今後も取組みを進めて参りたいと思います。

(産業振興課)

事業の検証と評価

森林・林業の再生に向けて動きだしたことを評価する。今後の事業進展のかぎは境界明確化である。しかし、冬期間は山に入らず、相当な時間を要する困難な作業となることを考えられる。山林所有者の高齢化と代替わりも進んでいる。

今後も行政主導の下、早急に森林の整備と、林業の再生・発展を促進していく必要があると考える。



お詫び 前号 (VOL.127) P.13の青木彰榮議員の辞職日が誤っておりました。正しくは10月23日でした。

タマナ？



高橋好子 さん
(十王地区)

インタビュー よむぎざったなっすー

子ども達が 離れていかない町に

福島県伊達市ご出身。故郷の友人がぎっかけで旦那さんと知り合い、十王に嫁いで27年。「今ではすっかり白鷹人」と話す高橋さんにお話をお聞きしました。

大震災の影響は

原発の事故で、妹家族も去年まで米沢で避難生活してたんですよ。

白鷹で初めての体験は

長靴を履いたのが初めてでした(笑)。

実家はほとんど雪が降らないので雪はきも最初のころは珍しくて楽しかったですよ(笑)

最初苦労したことは

やっぱり言葉ですね。「タマナ」の意味が分からず、ご近所からの伝言を、うまく伝えられなくて、大笑いした日々が続きましたね。

白鷹の良いところは

食べ物美味しくてびっくりしましたあ。こちらの方は、食べ物のアレンジがとても上手ですよ。茄子漬けひとつにしても、いろんな漬け方があって、勉強になります。

キノコの種類が多いのにも驚きましたね。白鷹に来て初めて山にキノコ採りに連れて行ってもらいました。

あと、ご近所同士すぐく仲が良いんですよ。他県から来られた方もいらつしやるし、若い人同士の集まりもあって、いろんな話が聞けて楽しいですよ。

どんな町になって欲しいですか

子育て医療費の助成や授業料の無償など、町が子育てを応援してくれているのは、ありがたいし、とても助かっています。

子ども達が大きくなって、「働ける場」をもっと広げていただきたいです。家から離れないで、または将来戻ってきてもらえるような町になって欲しいですね・・・。

町にもっと頑張ってもらいたいところは

白鷹の米は美味しいと実家でも評判です。野菜や果物も美味しいので、県外の方々にも沢山宣伝していただきたいと思っています。

最後に、議会に期待することは

他の地区の議員さん方とも話せる場所があると良いですね。

とくに、20代、30代の若い方々と、ディスカッションなどで親睦を深め、さらに町の活性化などを話し合う機会があれば、議会がもっと身近に感じられると思います。



お手持ちのパソコンで議会中継をご覧いただけます。録画でもご覧いただけます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局までお寄せください。

編集後記



この度の定例会での傍聴者数は、初日の本会議に47人、決算特別委員会には25人、最終日に5人とたくさんの方々に来ていただきました。

今号の「議会になぜ？」は議会の活性化を取り上げました。傍聴に来てもらえる議会にすることも活性化のひとつです。はじめて傍聴された方から「緊張した」「意外と議場が狭かった」「質疑の内容が難しかった」などの感想をお聞きしました。これからも身近な議会を意識した取り組みを進めていきます。ご注目ください。(小口)

広報委員

委員長	山田 仁
副委員長・編集長	小口 尚司
委員	石川 重二
委員	佐々木 誠司
委員	笹原 俊一
印刷	(有)梅津印刷

発行責任者 白鷹町議会 議長 遠藤 幸一 編集 議会広報特別委員会

〒992-0892 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833番地 電話 0238-85-6135 FAX 0238-85-2128

E-mail gikaijimu@so.town.shirataka.yamagata.jp HP <http://www.town.shirataka.lg.jp/gikai/>